

| | |
|--|---|
| | <p>がら、やりとりを聞いていて、⁽²⁵⁰⁾実際の場面にちよつとさせてもらえるようなことはあるようですけれども、やはり児童養護とか障害者の施設はほとんどないですし、正直なところ、ここまで学生に実習指導を求めているんです。話がしていただければ、聞くことはあるかもしれないですけども、実際、保育所の実習でも、保護者支援のところは難しいので、⁽²⁵⁴⁾帰ってきてから、「<u>実際の仕事は子どもだけじゃないよ</u>」というようなどころを伝えるところが、現状としては、限界かなというふうに思っています。</p> |
| <p>事後指導</p> | <p>養①：事後指導に力を入れようと思つて、県内の何校の先生で事後指導に特化したテキストを作つて、とにかく振り返りをきちんとする。⁽²⁶⁰⁾できたこともできなかつたことも振り返ることによって、⁽²⁶³⁾振り返しシートを作つて、それを自分で記入することによって、⁽²⁶²⁾どういうふうなところに学びがあつて、これからの課題がどこにあるのかということを伝えて、考える機会を設けています。</p> <p>帰ってきて初回の授業は、「私も聞かないから、悪口でも何でもいいから、ぶつちやけなさい」と、「その代わり、以降、絶対悪口とか批判をするな」と。一つ一つの職員さんのいろいろいる関係とか、いろいろろくろくがあつたと思つても、⁽²⁴⁹⁾自分の学びも含めて、必ず背景がある。思いがすごくやばりあるので、とにかく思いを吐き出して、以降は、きちんとその⁽²⁵⁰⁾自分の言動や子どもへの関わり等を冷静に客観的に分析をする。</p> <p>グループで取り組むことも多いんですけども、どうしても「保育所保育士とは何か」、「施設保育士とは何か」という視点で事後指導をしていんだんですけども、⁽²⁵⁴⁾援助職としての共通項というのをきちんと学生自身が発見して、⁽²⁵⁴⁾その上に、対象児童や障害者、障害児というそれぞれの専門性がどう乗つてくるかということも一貫して話をすることによって、事前指導のところから、そこはぶれないようにやろうかなと思つています。</p> <p>まず振り返りシートを自分で記入し、それをグループでまた持ち合いながら、発表を各学生がそれぞれでして、それに対して、学生同士でやりとりをして、「それは、何でそう思つたの？」とか、実際はそんなに盛り上がりたらないんですけども、⁽²⁵¹⁾自分の同じような体験をしても、感じ方が違つたりとか、⁽²⁵²⁾そこで頂いたアドバイスが違つたりすると、⁽²⁵³⁾疑似的な体験につながる。</p> <p>Iの保育所と施設が終わつた段階で、⁽²⁵⁶⁾保育者であると同時に援助者であるというところを意識して、⁽²⁷³⁾実習Ⅱまたは実習Ⅲに向けて実習の課題をどう設定するかというところなんですね。で、実習Ⅱ、実習Ⅲに言うところ、本学の場合ですと、エピソードを文集にしているの、それを書くための材料をきちんと乗つけてきて、そこも、それは本当にやりとりをしながら、形にしまして。</p> <p>150人ぐらいいないんですけども、全員分、目を通すので。ただ、それもいろいろ工夫をして、まず⁽²⁶⁷⁾グループの中で学生同士で読ませて、おかしところをそれぞれで指摘をして、ある程度文章になつたものを見る。でも、すぐく</p> |
| <p>として「虐待＝悪」みたいな、善悪の判断みたいな形になりますので、そこに行き着かないようにだけは授業の中で話してはいます。⁽²³¹⁾その行動に至った背景を理解していくであつたりとか、⁽²³²⁾そういうふうにならざらないといけなかつた理由等を考へていって、そこも含めての保護者支援なんだという。これは一般論にしかならないんですが、そういうふうなことをちゃんと考えられるように、いい悪いとかという考え方はなく、そういうふうには⁽²³³⁾授業の中では意識しながら伝えているつもりではあります。</p> <p>養①：さまざまに種別に実習としては行かせていただいておりますので、その種別ごとに小グループをつくりまして、実習を、もちろん守秘義務には配慮をさせていたのですが、⁽²⁴⁴⁾どんなことを経験したのか、⁽²⁴⁷⁾どういうふうな指導を受けたのか等々についての⁽²⁶⁶⁾グループワークを、まず帰ってきて、すぐにさせていたです。その振り返りをさせていただけでも、また、またそれぞれの実習先に行ったグループごとで⁽²⁶⁵⁾レポートを1本まとめまして、それに対する⁽²⁷⁰⁾報告会のような形を催させていたです。「私たちは、こういうところに行かせていただいて、このようにご利用の方が生活がされて、こういうことを学びました」ということを、全ての施設で発表の機会を持つていないんですが、何ケースかを全体に対して話す時間を持つています。</p> <p>また、実習前に個別の課題をそれぞれ考えられていますので、その個別の課題について、これは個人ワークとしまして⁽²⁶³⁾自己振り返りというところでの課題提出をするという。大きくは3つが事後指導をさせていたというポイントです。</p> <p>養②：私どもも重なるのですが、それぞれのグループをつくつて⁽²⁴⁵⁾体験の感想を述べたりとか、そういう簡単なグループワークの後に、私どもの場合には全ての⁽²⁶⁵⁾実習先ごとに発表のレポートをまとめまして、それは全部の施設にいた全部の学生が、⁽²⁶⁹⁾全部のグループが発表を行います。施設のほうに「こういった形で発表を行うようにしている」ということを事前に書類でお伝えしておいて、発表前にレポートを確認したいということについて、現場の⁽²⁷²⁾職員ともやりとりしながらレポートを作成しています。</p> <p>それで、発表が終わつた後、発表の内容、そこで出た質問などを、別のグループの学生で役割を決めまして、そこでの質疑の内容と、それから発表内容で分かつたこと、分からないことと、調査票を作りまして、発表自体の評価をまとめさせています。</p> <p>そのグループのレポート、発表レポートと、それから発表会で出していた質問と、それに対する学生の答えとを全て記録したものを、⁽²⁷⁶⁾施設のほうにフィードバックをするというところで、最後、事後指導を終えるような形にしています。</p> <p>施設のほうからは、事後指導の際に学生が作ったレポート、それから質疑の内容等について⁽²⁷⁷⁾コメントシートを返していただくようお願いしている</p> | |

ます。これは全部から返ってくるわけではないんですけども、丁寧に見て返してくださるところも複数あって、⁽²⁷⁶⁾説明が足りなかつたというところでは追加の資料をいただいたりすることもありますので、それはまた返していくようにしています。

その後で、レポート発表と施設から戻ってきたものを見ながら、翌年、実習を予定している⁽²⁷²⁾次の学年に向けたポスター発表を全グループが行うというような形で事後指導を行っています。

それと、もう一つは、⁽²⁵⁸⁾個別面談等を行うんですけども。これは、実は実習評価について、私どもは全部、公開というか、⁽²⁵⁹⁾本人に評価票を公開するようになっています。本人に対して面接を付けて評価表を開示しています。自分の評価表については開示をすという形を取っています。その開示を行う面接の前に、自分自身で、施設が自分に対して行ってきた評価表と同じ様式で⁽²⁵⁷⁾自分の評価を付けてきてもらって、⁽²⁵⁹⁾それと比較する形で、**学生の実感**と、それから**施設からの評価**というのを擦り合わせる作業というのも行っているところです。

気付きはあるんですけども、短大生の特徴なのか、それを言語化するということが難しいので、そのところが、せつかくの学びがちょっとなかなか次のつながらないというところが課題だと思います

養②：事後指導はとても重要だと思います、⁽²⁷⁰⁾まだ不十分だということとは感じています。短い期間ですけれども、本当に⁽²⁶⁴⁾さまざまに経験をしてきたところから、何をくみ取っていくのかというところが、事後指導ですらに問われてくると思いますけれども、それと、学生の中では、現場で実習をしていたときには、⁽²⁶²⁾自分の個別課題を見つけたり、⁽²⁶¹⁾自分の持味とか、自分には足りない点なんかを意識して、ここをもう少し今後学んでいこうというふうに思っていたにもかかわらず、帰ってくる、帰ってくる、帰ってくる一般的な課題に退化してしまっているところがあるんですね。「もっとな、何か、発達について知識を深めなきゃ、そんなの、もっとな前の話でしようという感じの話に退化する人もいますので、そういったふうにならないためにいろいろやってはいます。

施設実習の実習先を確保するのはとても難しく、五月雨式に出している。それで保育所と施設は別にやっています。施設の場合には、早く行った人とは、行っていない人がいる段階で、まず最初の振り返りが出てきます。そのときには、行った人が「どういうふうに取り組んだら、自分の学びが深まりました」ということを話してもらったりして、⁽²⁷¹⁾次に行く人に生かしたりということをしたりしています。

⁽²⁶⁶⁾施設は種別がたくさんありますので、やっぱりグループワークをするんですけども、乳児院とか、児童養護施設とか、混合グループにして、それで最初は一緒にグループにします。同じ乳児院でも結構違ったりしますので。そして、混合グループにして、⁽²⁶⁵⁾施設によって保育士の働きが違うということを学ぶ機会になっている。

⁽²⁶⁸⁾事例報告シートとか、⁽²⁶³⁾自分の学びと向き合うシートみたいなものを作って、それがしっかりと自分の取り組みを振り返って、この⁽²⁶⁸⁾事例検討会みたいなことを小グループで行って、最終的に⁽²⁶⁴⁾実習報告書みたいなところも作成するというところに至る。

4 年制大学で 4 年次に卒業研究が必修になっていますので、学生によっては、結構、実習で経験してきたことを深めて、⁽²⁷⁴⁾卒業研究に自分のテーマを設定して、それでさらに深めていく学生もいたりします。施設に関しては、1 割にも満たないです。

施②：そういった取り組みをしていただいているだけども、実習が終わった直後というのは、少し気持ちが高ぶっていると思うんですけども、そういったところ、そういった取り組みをしていただけると、すごく振り返りとしては、悪口を言わせるとか、そういう、僕も実習のときに、自分自身がこれは言えないこととときちんとまとめるとことというふうにやっていたんですけども、⁽²⁸¹⁾面白い取り組みだなと思いました。

| | | |
|-------------|--|---|
| | | <p>施①：大学によっては、その⁽²⁸¹⁾実習報告書を打ってくださるんですね。僕は読むのが好きでした。で、ほかの、僕もよく⁽²⁸²⁾知っている施設のところも<u>読んで自分の中に収めるかというのとはとても大事な</u>ので、大学の先生たちは大変だなと。</p> |
| <p>実習評価</p> | <p>養①：評価のときに参考にさせていただいたのは、⁽²⁸³⁾実習先から返ってきた<u>評価表</u>、また先ほど説明させていただきました⁽²⁸⁹⁾事後指導、または<u>実習前の授業の内容</u>にはなってるんですが、 あとは、⁽²⁹⁰⁾実習中に訪問させていただいた<u>教員の、実際に会った表情であったりとか、そのときにいただいた指導内容であったりとか、そのときに⁽²⁹²⁾学生に自己評価等をさせて、その後</u>に中間で後半に向けての課題等であったりとかを<u>確認</u>しますが、それらを総合的に合わせて評価はさせていただきます。</p> <p>施②：養②の先生が言われたアウトプットの場合は、かなりいいんじゃないかな。学生へ、それはいいんだと思いますので。ただ、僕も、事後指導のポイントでは、うちはもう単純に1つだけで、⁽²⁹⁰⁾「<u>あなたの中で何が変わったか</u>」、それを自分で言葉にしてもらうようにしています。「意外と長いよ」と言ってもう、何分か話させます。で、整理させますか。そんなところですかね。実習評価も合わせてですか。 ⁽³¹²⁾実習評価は、職員は結構、厳しくしがちで、その厳しさを自分に向けていると思うときもあるくらいで、ちよつとそれは、どちらかというと心配しているくらいです。</p> <p>施①：評価用紙に関して言えば、もう、かなり、やっぱり⁽³⁰⁵⁾学校によってさまざまです。正直、⁽³⁰⁷⁾この内容をどう評価させてもらおうかと、困ってしまふと思うときはあります。やっぱり⁽³⁰⁸⁾ここまでの内容を学生に体験してもらえたらどうだろうかという施設側の思いもありますし、⁽³⁰⁹⁾学生自身があることを学ぶつもりでいらしたのかどうかというふうな。 よくあるのは⁽³¹⁰⁾地域支援です。実際、入所施設に入っていた中で、子どもたちへの対応がメインになりますので、地域の方との関わりというのを実際に目にしていただくとことというのはかなり少ないです。口頭でお伝えはできますけれども、そこを実感してもらおうようなプログラムも施設のほうで組めるといいのかなとは思ってますけれども、それよりは、せつかく児童養護施設、乳児院、障害者の方の施設というところに来ていただく中で、やっぱり支援者としての、まず利用者さんとの部分というところを学んでいたことがどうしてもメインになってしまふかなというふうに思う部分があります。地域支援の部分は、結構、悩むところではあったりしますし、 事後指導で、私も⁽²⁸¹⁾フィードバックされてという部分は、施設側も、学校</p> | <p>養②：実習先に書いていただく評価表が戻ってきて、個別面談をするんです。Iで実習をして、その後、個別面談をして、IIとかIIIになぜかという形です。そのときに、既に評価表が返ってきた場合には、それは直接的には学生には見せないんですけども、実は、2とか、1とか、いるんですけど、「2だったよ」というのは言わないです。ただ、⁽²⁸³⁾「ここはどうだったの?」とか、「ここはどういうふうにやっただろう?」みたいなことを学生とやりとりをしながら、少し課題を意識してもらおうみたいなところは、ちよつと短めの個別面談なんですけれども、そこで活用させていただいています。 やっぱり学生は自分がどういう評価だったのか、とても気にしていて、個別面談をしたときに、「まだ評価表が戻ってきていないんだよ」と言った学生は、「もう戻ってききましたか?」みたいなことを聞きに来たりして、 最近の学生は、実は、⁽²⁹⁷⁾自己評価が高い人が結構多いんです。それで、でも、実際の評価は低い。「現場の先生が『本当にすごしくっかかりと取り組んできたね』というふうに書いてあるよ」と言うと、⁽²⁹⁶⁾ものすごくうれしそうなお返事になりますね。それが励みになっているんです。</p> <p>施①：⁽³⁰²⁾基本的には、ネガティブな評価はしない。欠席してしまったり、遅刻してしまったりが何度もあったら駄目なんですけれども、ずっと同じ大学さんと連携させていただけなので、大学さんのほうもよく分かっているから、やっぱり大学さんのほうに言うしかないんですけども、ほぼほぼそういうのがない。来る方は違うわけですからね。で、そうだった、さっき言ったみたいに、まだ19、20歳の方なので、ネガティブな評価をして、それでこういう仕事を嫌だかなと思われれば、⁽³⁰²⁾いいところを見つけて、それはもううちの利用者にとつても、若い職員もそうなんですけれども、そういう気持ちでいます。 ⁽³⁰¹⁾人生経験がないわけですから、自分の水準で、僕はよく分かります。人事考課をやると、若い職員ほど自分を高く評価していますから。だけど、中堅どころ以上になると、⁽³⁰¹⁾だんだん周りが見えてくるから、自分がほかの人と比べてできていないところというのは客観的に分かるんですけれども、やっぱり、本当に職員でもそうですから。</p> <p>養①：巡回で様子を伺い、実習記録にもコメントを頂き、評価表を頂き、何かちよつとご意見を頂戴するシートを別に設けていて、指導の体制とか、巡回の方法とか、そういうことも含めて、事務的なことも含めて、何かあればと書いて</p> |

のほうで、その後、どういうふうに取り組みられているかというのがすごく見える形で教えていただけていて、すてきなというふうなふうに思いました。

実際、実習指導を実習記録等も全て指導をさせてもらって、⁽²⁸²⁾実習を終えて、その後、学校で、どういったふうな形で学生の学びが深まっていたのかというの、なかなか知る機会も少なかったりします。

やっぱり実習期間中に「⁽³⁰⁰⁾学生は今、学んで、育っている方たち」というふうな思ったりも、できないことだけではなくて、「これはうまうまうまかかかかたけれども、でも、こういうふうにしたら、うまうまよくね」というところを一緒に共有させてもらったり、どういうふうな伸ばしていったもええるかというところも思いながら指導をしていますので、そういう部分でも、⁽²⁸³⁾学校のほうと施設が共通認識の下、学生の意欲を高めながら指導をさせていたただけたらいいなというふうに思いますし。

実習評価の部分でも、やっぱり自身の評価と擦り合わせたのは、すごく大事なのかなと。学生自身は、すごく「こんなふうなやられた」と思っているけれども、施設の指導者のほうから思う部分が少なかったりすると、学校の教員のかたがたも、どういったことが起こっていたんだらうというふうな思われるかなというふうな思いますし。

実習評価を記入する際にも、先ほど言いました、できないことを羅列するのではなく、「⁽³⁰²⁾こういうふうな頑張れると、よかつた」というふうな思いますが」ということはもちろんですけれども、「⁽³⁰³⁾こういうことが、すてきだった」というところも評価の中では記載するように気付けています。

施②：もう一度、ちよつと現場で思い出したのが、本当に正直、いろいろ出してもよろうでいたんが、「⁽³⁰⁶⁾この様式は、もう印鑑ばかりだなあ」みたいな。LINEのスタンプとは違って、学生も児童期は保護者に押しもろろうでいたんやろうけれども、だんだん大人の社会にいくのに印鑑というものはなくなって、大きな組織やと決済とか。

小さい社会は、正直に言うると、そういうのも意外となかつたりする中で、これは、もつと養成の学校の先生が作ったんかというくらいで、「あんまり印鑑を押すやつは、ちよつと考えてほしい」と現場が言っていました。

施①：それ（フィードバック）をさせていただくことによって、⁽²⁸⁴⁾施設側も伝え切れていなかったことに気付けるんです。逆に、⁽²⁸⁵⁾思いがあつて伝えたいことが、学生の認識の中で違ふというこも、やっぱりありますので、それを、そういう例を教えていただくことによって、施設側のそういう実習指導をしていく中でも、「あ、では⁽²⁸⁶⁾学生たちには、やっぱりこういう伝え方が効果的なんだ」という、よりよい実習指導につながる部分もあるかと思うので。

施②：これは、施設側としては、被送致児童と虐待。私たちも100点満点の

ていただくんですけども、⁽²⁸⁸⁾全部が一致しないことがあつて、評価をお願いするときは、「最終的な評価は学校で付けるので、忌憚なきご意見を」ということをお願いをするんですが、現場では、めちやめちやに言われて、「もう私、全然できませぬ」と言つて帰ってきてても、評価表はすごい良かったりとか。ただ、もらつたご意見のペーパーには、「どのような指導をしているんですか？」みたいなことが書かれていたりとか、書いている方が違ふのか、ちよつとその辺が分からない。

本人と面談をして、記録を読んで、評価は付けているんですけども、そういうところも若干あるかなというのが1点で、そんなところが、それは学校の課題でもあるんですけども、評価というのはやっぱり難しいと感じる。

発達に課題を抱える学生がかなり増えていて、20歳のこの今の状況では、やっぱり現場に出ることが難しいと。行かせない理由がないので、実習にはお話をしてお願いをするだけけれども、やはり⁽²⁹⁴⁾適性ということではなく、⁽²⁹⁵⁾これかからなるために、その学生がどういうところを身に付けていくのかということとを考ふる機会だと思つたので、「未来ある学生なので、不可は付けません」と言つて、不可は付かないんですけども、講師は限りなく不可に近い。それはもう記録、ちよつと実際の例を出してあれなんですけれども、施設に実習に行つた学生は、本当に出るときもすつたもんだらうであつて、ようやくお願いをして、状況を話して受けていたんだらうですけれども、海岸の清掃に行つた日のごとが記録に書いてあつて、その日の考察に、「今日は、海岸にごみ拾いに行きました。僕も、あ、僕と言つてしまつた。「僕もこれからごみの分別をしつかりしようと思つました」といつて書いてきたんですけど。「いやいやいや、何しに行つたのよ」と、そこに対してコメントは書いてくださったさつていてるんですけども、もちろん、そこは丁寧に指導してくださいなんですが、いや、考察、感想でも、そこは本当に自分の感想なので、ごみ拾いをした感想なので、「そのレベルはやっぱりまずいよね」というところが1件、2件、やっぱりうちのほうにあつて、「最後の責任は私たちが取るのよ」ということで、評価を付けないで返してもらつたというふうな方法で、今、やつていて、その辺のやりとりが難しいなというふうな感じています。

施②：担当者が3と言つたら、それは4にする、みたいな、4とか5にするみたいな感覚で、⁽³⁰⁴⁾基本的に学生がやる気が持てるような形で評価をしているというのは、園としても統一していますので、本当によつたことじゃない限りは、大体3が付いている学生はもう相当まずいという感じの、4か、5の感じにうちにはしているの、とにかく⁽³⁰⁴⁾学生がやる気が出るような形で、あと、具体的に書いてあげるということを意識しています。

保育実習と社会福祉実習を受けているんですけども、保育実習で、実習の段階を3段階に設定して、1段階と2段階はケアワーク中心で、3段階目からケアワークの試験を取り入れていっているんですけども、保育実習の方

| | | |
|-----------------------------------|---|---|
| | <p>ことをしているわけじゃないから、やっぱりこの考えが入ってから、何か不適切な関わりというのがなかったかというの、かなりセンシティブだけれども聞かざるを得なくて、⁽²⁸⁷⁾「あのときは、なぜ、ああやったのか」というのがたまたま出て、<u>説明責任を求められるときもありました</u>。実習が終わってからは、どちらかという、学生よりも、その後、ノートのやりとりとかで、施設が、もう済んだこととして⁽³¹⁷⁾施設のほうで学生に返すのが遅れがちなところがあるから、現場の職員がよく怒ることが多いですけれども。</p> | <p>たちは 2 段階までなんですけれども、このケースワークの個別援助計画であつたりとか、ちよつとケースワークの試験を入れていく実習というのは社会福祉士のみなんですけれども、この辺りは、保育実習のほうでも入れていったほうがいいんですかね。</p> <p><u>本人が本場にそのまま現場に出るということを考えていけば</u>、もう少しお話を頂けるといいのかなとは。</p> |
| <p>実習 I と 実習 III の 違い</p> | <p>施①：2 度目の実習の場合は、もう他の施設も経験されていますので、そういう社会的養護の施設と、例えば⁽²⁸⁸⁾保育所の違いに着目しながら実習されている学生も多いのかなというふうに思っていますので、そこで⁽³³⁰⁾ステップアップされている学生というふうに捉えて、やっぱりお話しする⁽³²⁹⁾内容を少し変化させたりという部分もありますし。</p> <p>実習 I だと、まず実習に来て、子どもたちとの関わりにてんやわんやして、その中で、ちよつとこんなふうにはできなかったというところまで 10 日間が終わってしまうのかなというふうに思いますので、本来ならば、やはり施設にも 2 回くらい来てもらえらるほうが、学生の中でも⁽³³¹⁾いろんな理解が深まるんじゃないかと思えますけれども、そういった⁽³³²⁾指導の工夫というのは施設のほうも意識していかないかというふうには思います。</p> <p>施②：施設によっては I と III の区分を明確にしているところもあると聞きます。⁽³³³⁾うちは、<u>そこまでそれほど、まだできていません</u>。この間、同時に I と III を受けたときは、やっぱり⁽³³⁴⁾職員のほうも混乱した様子がありましたので。そのくらの現状ですかね。</p> <p>養①：III のほうでは、やはり、⁽³¹⁴⁾もう少し深めた内容というところを私自身も考えておりますので、指導計画まではいけないですが、その触り、あとは⁽³¹⁹⁾個別支援計画等を考えていくところを学生自身に考えさせる。</p> <p>あとは、課題をもう⁽³¹⁷⁾少し深めた課題にして、そこについて調べをしていくということを意識はしています。ただ、実際の実習になりますと、私の個人の意見としては、種別の違うところに行かせています。というの、さまざまに種別を経験していただくためにです。そうなりますと、⁽³²²⁾その種別では初めての 10 日間になりますので、⁽³²⁴⁾やはり実習の内容としますと、<u>I が少し深まったかなというくらいにはなっています</u>。</p> <p>逆に、じゃあ、そこで III だから、より深めてというふうな内容になると、学生も、まず子どもたちに対応するところで、てんやわんや。そこに、実習が難しく、てんやわんやというふうになりますので。実際に III は、こういう深まりという「たてり」がある反面、実際の私の指導も不足はしていますし、⁽³²⁷⁾実習の経験としても少し難しい部分があるとは個人的には思っております。</p> | |

| | |
|-------------------------|--|
| <p>養成場の実習指導者の専門性と研修</p> | <p>養②：短期大学のほうに、以前、勤務しておりましたので、同じ本学の短期大学のほうでは、⁽³¹⁸⁾施設に就職を希望している学生がほぼⅢを履修するというような、はっきりとした特徴があって。⁽³¹⁹⁾人数的にも3人とか2人とか、非常に少ない人数でしたので、⁽³²²⁾施設のほうにⅠと違う内容をお願いするということではできないというか、⁽³²³⁾ⅠとⅢで書いたものを用意できるといところは、その当時でも、今も恐らくそんなにたくさんはないと思うんですけど、Ⅰカ所しかなくて。</p> <p>本学の、これには実習時期の関係で、それが難しかったので、Ⅰ、こちらで、先ほど養①の先生が言われたみたいに⁽³¹⁶⁾Ⅰで経験したことをどの程度、深められるか、少し授業の中で、事前指導でレクチャーするという形で。⁽³²⁰⁾学生自身も、深められるような学生であればできるんですけども、⁽³²¹⁾そうでない場合は、なかなか、Ⅰが2回という状況になっていたんじゃないかなというふうには思っているところですよ。すいません。</p> |
| <p>養成場の実習指導者の専門性と研修</p> | <p>施①：中間管理職がやっている。中間管理職は、実は、そういう意味で言ったら、もうそこまでできる人たち。もう⁽³⁵⁶⁾実習担当の中間管理職ということは、「大学に対しては、君たちがこの法人の顔なんだぞ」というのは、中間管理職には口酸っぱく言っていて、実習のところというのは、うちの児童で言ったら、それまで実習担当を10年ぐらいやっていたのが、今、施設長にいるんですけども、⁽³⁵⁹⁾もうその教育です。</p> <p>一番いいのは、そのときに1年間来る生徒を自分のところと呼んで、先生ごとオリエンテーションするのが本当が一番いい。⁽³⁶⁰⁾実習担当の先生が一番最初のオリエンテーションと一緒に来て、オリエンテーションを受けるのが一番いいんです。</p> <p>⁽³⁶⁴⁾ある大学は、実習の前に、3時間、僕のところで授業をします。今、2つの大学さんが出ているんですけども、それは、ひとまず、見学もそうならないんですけども、うちは一番古いので、うちの歴史、イコール、知的障害者の歴史なので、その大学は、これから実習に出るクラスは、みんなうちに来て、だから、30人、40人、50人なんですけれども、ひとまず、僕の講義をじかに受けて、それでその後、うちの施設がどういうところかをやっていただくと、実習生もうちよつと、自分たちだけで来るよりは、あまりびくびくせずに来られるんです。</p> |
| <p>養成場の実習指導者の専門性と研修</p> | <p>施②：僕が受けた実習指導者講習会の講習でやっていたのに、⁽³⁵⁷⁾ロールプレイで学生の立場に、学生役をやるといいうのをやったときに、それは初めて訪問する場面とかをやったときに、⁽³⁵⁸⁾結構、何も分らない学生に対して、ちよつとレベルの高いことを言ってしまったっていう自分がいたり、気がききがあったりとかしたもので、そういうロールプレーとかかというの、研修の中では、僕はすごく役に立ったのかなと思って、そう思ったところをあらためて、分らないですけれども、養成校の先生は、多分、そういうのを受けていて、理解さ</p> |
| <p>養成場の実習指導者の専門性と研修</p> | <p>施①：やはり人と接する仕事というところで、他のさまざま資格と違うのは、⁽³⁵⁹⁾いろいろな方法、支援方法があったり、⁽³⁶⁰⁾答えが明確にあるものではないところ、⁽³⁶¹⁾理解を深めていくところ、⁽³⁶²⁾逆にものののなかというのが個人的に思っている部分であるんですけども。私も、なかなかうまく言えないところもあって、申し訳ないんですけども。</p> <p>やっぱり大学のほうで、近県の大学を受けることが多いんですけども、各大学でも⁽³⁶⁷⁾実習懇談会という形で施設にお声掛けいただくことも多いです。そういった場にはできるだけ参加させていただくようにしています。そういった中で、⁽³⁶⁸⁾施設のほうで実習生に対して感じている思いであとか考えるところをお話しさせていただいたこと、学校との共通認識</p> |
| <p>養成場の実習指導者の専門性と研修</p> | <p>施②：はいそうです（保育士実習のみ受け入れかどうか。）</p> <p>施①：やはり人と接する仕事というところで、他のさまざま資格と違うのは、⁽³⁵⁹⁾いろいろな方法、支援方法があったり、⁽³⁶⁰⁾答えが明確にあるものではないところ、⁽³⁶¹⁾理解を深めていくところ、⁽³⁶²⁾逆にものののなかというのが個人的に思っている部分であるんですけども。私も、なかなかうまく言えないところもあって、申し訳ないんですけども。</p> <p>やっぱり大学のほうで、近県の大学を受けることが多いんですけども、各大学でも⁽³⁶⁷⁾実習懇談会という形で施設にお声掛けいただくことも多いです。そういった場にはできるだけ参加させていただくようにしています。そういった中で、⁽³⁶⁸⁾施設のほうで実習生に対して感じている思いであとか考えるところをお話しさせていただいたこと、学校との共通認識</p> |